第48回 日本薬剤師会学術大会にて、調剤薬局における外国人患者の対応状況についてポスター発表

くすりのしおりコンコーダンス委員会 副委員長　程島 直子

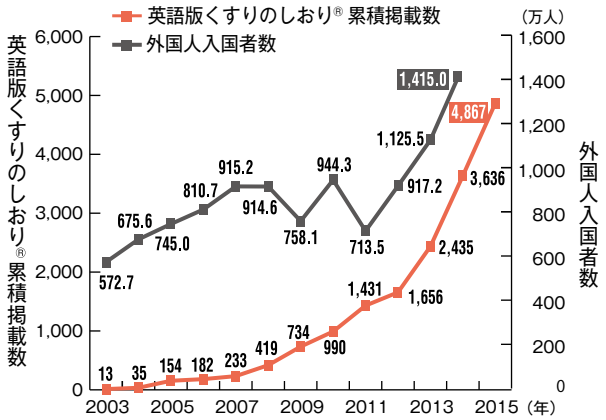
2015年11月22～23日に開催された第48回 日本薬剤師会学術大会（鹿児島市、参加人数7,294人）において、「調剤薬局における外国人患者への対応実態に関するアンケート調査」というタイトルでポスター発表を行い、協議会のブースを出展しました。

3年前の第45回 日本薬剤師会学術大会で、英語版「くすりのしおり®」の使用状況および掲載数について報告した当時に比べ、現在、外国人入国者数は約1.5倍（1,415万人※）に増え（図1）、医療現場においても外国人患者への対応の機会が増えています。このように訪日外国人が急増している折、調剤薬局では外国人患者に対してどのような対応をしているか、全国の調剤薬局で外国人患者の対応経験のある薬剤師408名にアンケート調査を行いました。

その結果、調剤薬局では外国語対応スタッフの配備などの服薬指導体制はまだ十分ではないこと、英語版医薬品情報の必要性は高いが（図2）、まだまだ準備不足であることが判明しました。また、そのような中、英語版「くすりのしおり®」は役立つツールの一つとして好評でしたが、その活用頻度は低いものでした。

本ツールが薬剤師および外国人患者双方の不安軽減に役立つことを期待し、「くすりのしおり®」作成企業と共に、活用範囲のさらなる拡大および充実を図りたいと考えています。また、英語以外に中国語や韓国語訳のニーズが高いことは直近の大きな課題と思われました。

図1　英語版くすりのしおり®掲載数と外国人入国者数の推移

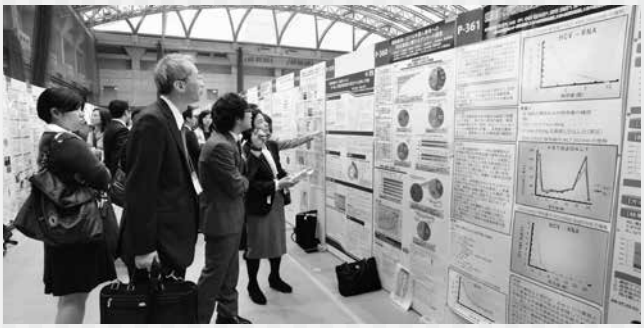


法務省資料：http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri04_00045.html

会場では、薬剤師さんばかりではなく、翻訳システム企業や薬局研修担当者の方たちとも情報交換でき、IT機器（タブレット端末、スマートフォンなど）を活用した外国人患者対応のニーズが高まりつつあることを感じました。

またブース出展では、「くすりのしおり®」の普及とコンコーダンスにかかわる動画の宣伝を実施し100名を超える方が来訪しました。日本語版「くすりのしおり®」を知っていても英語版があることを知らない薬剤師さんが少なからずおり、今回、多くの方に認知していただく良い機会になりました。

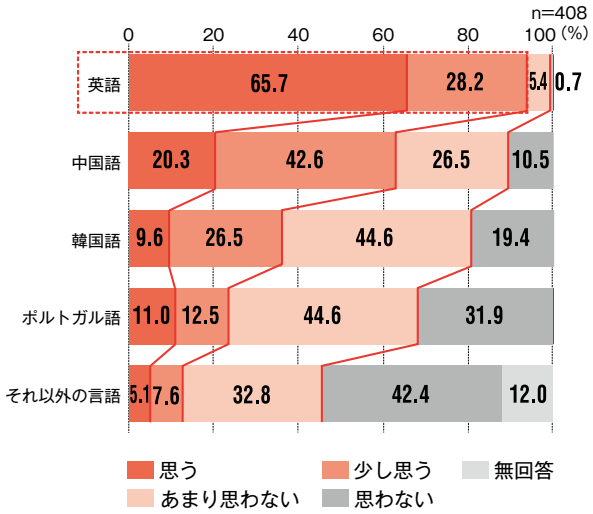
※2015年の外国人入国者数：1,969万人（2016年1月速報値）



ポスター発表の様子

図2　外国人患者への対応ツール

下記の外国語の医薬品情報は必要だと思いますか？



ほとんどの薬剤師（94%）は、英語版の医薬品情報を必要だと思っている。